

医療
見えない



コントロール室



963のベッド、41の診療科を有する兵庫医科大学病院。そんな巨大病院を動かす電気やガス、水道などのインフラを統括し、管理する部署が「コントロール室」だ。ここでは、24時間365日、建物管理に関する資格を持つ専門職員が常駐し、さまざまなインフラ設備を日々点検・調整している。外からはなかなか見えないところで、患者さんやご家族が安全に過ごせるように支えているのだ。



① 特高電気室

電力会社から受けた電気を、敷地内の各棟へ送電する。電圧・電流の数値に問題がないか、漏電の危険性はないかなど、職員が一日に2回、30分以上の時間をかけて点検を行っている。

② ボイラー室

約120℃の高温ボイラーで蒸気を生成し、院内の厨房や滅菌室などに送る。また、沸騰したお湯を貯湯槽にためた後、各病棟などへ送水する。ボイラーの圧力が正常かなど、日々点検を行う。